



資料提供	
令和5年2月6日	
担当課 (担当)	農政企画課 (赤澤)
電 話	0857-30-8302 (内線 2481)

令和4年度鳥取市農業賞贈呈式について

このたび、令和4年度鳥取市農業賞受賞者を決定し、贈呈式を行いますので、取材方よろしくお願ひします。

1. 概要 鳥取市は、本市の農業の発展に功績のあった個人・団体等に対し、「鳥取市農業賞」を贈呈する鳥取市農業賞贈呈事業を昭和56年度から実施し、これまでに個人64人、団体52団体が受賞しています。受賞者については、鳥取市農業賞選定委員会（鳥取市農林水産部、鳥取県鳥取農業改良普及所、鳥取市農業委員会、鳥取いなば農業協同組合で構成）が候補者を選定のうえ、市長が決定するもので、今回は2個人、1団体が受賞されます。

2. 日 時 令和5年2月10日（金） 11時30分～12時00分

3. 会 場 鳥取市役所 秘書課第1応接室

4. 出席者

(1) 鳥取市

- ・市長 深澤 義彦
- ・農林水産部長 田中 英利
- ・農政企画課長 山川 泰成

(2) 受賞者

- ・優良農業者 田中 幸夫、田中 紀子（国府町）
- ・優良農業者 田崎 俊亮、田崎 美沙子（吉方温泉）
- ・優良むらづくり組織 佐治町婦人の家運営協議会（佐治町）

※受賞者概要は別紙参照

5. 次 第

- (1) 市長あいさつ
- (2) 受賞者紹介
- (3) 賞状授与
- (4) 歓談、記念撮影

6. 参 考

- ・優良農業者
農業経営が特に優良と認められる個人又は法人
- ・優良まちづくり組織
地域の活性化に積極的に取り組み、その成果が優秀な組織

令和4年度鳥取市農業賞贈呈受賞者概要

【事業概要】

本市における農業の発展並びに、その技術及び経営の改善意欲の高揚を図るため、関係団体等から推薦のあった以下の個人、団体を表彰する。

＜表彰受賞部門＞

- 優良農業者 農業経営が特に優良と認められる個人又は法人
- 優良営農組織 地域又は集団による営農を推進するため、集団活動に積極的に取り組み、その成果が優秀な営農組織（今年度該当者無し）
- 優良むらづくり組織 組織または集団により地域の活性化に積極的に取り組み、その成果が優秀な組織
- 特別賞 農業に関し、全国的な評価を受けた者（今年度該当者無し）
- 功労者 本市の農業の発展に功績のあった者（今年度該当者無し）

【令和4年度鳥取市農業賞受賞者概要】

＜優良農業者＞

田中 幸夫（74歳）、田中 紀子（73歳） 国府町三代寺

- 主な栽培作物：稲作（一般栽培米：7.2ha、採取栽培米：9.1ha）

本市認定農業者。国府町内で家族経営の米農家として一般栽培米、採取栽培米の生産を行っている。

平成30年以降は周辺の耕作放棄地や後継者不在の農地を集約し水稻栽培を拡大し、近年は水稻品質向上のため特別栽培米（コシヒカリ、きぬむすめ）の栽培に着手し、安定した営農を続けている。

後継者育成にも尽力し、現在は息子への経営移譲に向けた農家経営を行い、持続的な地域農業の取組を積極的に行い、本市農業振興に寄与している。

＜優良農業者＞

田崎 俊亮（43歳）、田崎 美沙子（44歳） 鳥取市吉方温泉

- 主な栽培作物：梨：1ha、ぶどう19a

静岡県出身。とっとりふるさと就農舎研修修了生（研修期間：平成26年4月～平成28年3月）元認定新規就農者

鳥取市久末、越路で果樹農家として梨、ぶどう栽培を行う。田崎氏は、妻の家族の出身地である鳥取市での就農を希望し、平成26年大阪市から本市へ移

住。とっとりふるさと就農舎において2年間の就農研修を経て、久末にて果樹農家として就農。

就農研修開始時は補助的な役割を行っていた妻も就農研修2年目以降は本格的に農業に携わっている。俊亮（経営主）が主に梨栽培を行い、美沙子（妻）が主にぶどう栽培を行う役割分担とし、少ない労力ながら効率的な営農を行っている。

梨栽培においては、収穫時期の分散化のため、就農時からの幸水、新甘泉栽培に加え、7月下旬から収穫が可能なはつまる、特産の二十世紀、晩生品種の王秋を栽培することで、収量安定につなげている。ぶどう栽培においては、シャインマスカットのほか、新たにBKシードレス（ベリーA×巨峰）を導入し、市場のニーズに合った品種栽培を行っている。

夫婦での営農に対する熱心な取組姿勢から、営農地である久末周辺の梨農家からの信頼も厚く、梨の栽培面積を年次的に拡大し栽培品種の多様化を行うことで順調な農家経営を続けている。米里地区での果樹栽培の担い手として今後さらなる発展が期待されている。

<優良むらづくり組織営農組織>

佐治町婦人の家運営協議会（佐治町加瀬木、会長 ^{やまぐち} 山口 ^こ るり子）

平成2年、佐治村（当時）において地域女性の強い要望を受け整備された佐治町婦人の家（佐治町農産物加工センター）開所に合わせ結成。

女性が集い、地元産の農産物を使った加工品作りを通して交流を行うことで地域活性化につなげたいという委員それぞれの熱い思いを原動力に活動が続いている。（会員32人。正副会長各1名、会計、庶務各1名、施設管理人1人）

佐治町婦人の家で加工作業を行う農産物加工品は、手作りならではの自然な美味しさが好評となっている。従前のものと比べ麴の量を増やした「倍こうじみそ」は、無添加で安全安心かつ美味しい風味が評価され、学校給食に採用されているほか、道の駅などでの販売も好調となっている。

運営協議会の積極的、意欲的な取組を長年にわたって継続することで、佐治地域活性化や地元高齢者の生きがいつくりなどに寄与している。